

## アセットマネジメント事業

### Asset Management Business

#### 主要企業

#### 中間持株会社:

SBIキャピタルマネジメント

SBIインベストメント

SBIキャピタル

SBIアセットマネジメント

SBI VEN CAPITAL PTE. LTD.

SBI Investment KOREA Co., Ltd.

SBI貯蓄銀行



アセットマネジメント事業では、IT、バイオテクノロジー、環境・エネルギー分野などの21世紀の中核的産業に集中投資しています。経済成長著しい新興諸国においても、豊富な実績により培われた信用力・ブランド力をもとに現地有力パートナーとの提携を進め、グローバルな投資体制を構築しています。

### 2014年3月期の業績

アセットマネジメント事業は、主に国内外のIT、バイオテクノロジー、環境・エネルギー及び金融関連のベンチャー企業等への投資に関する事業を行っています。

2014年3月期において、国内外の株式市場は堅調に推移しました。主要各国の株価指数を2013年3月末と2014年3月末で比較すると、上海総合指数は9.1%の下落となったものの、日経平均は19.6%の上昇、NYSE総合指数は15.6%の上昇となりました。また、国内IPO件数は前期に比べ1社増の53社となり、2010年3月期の19社を底に回復を続けています。

このような事業環境のもと、当期のアセットマネジメント事業の営業収益は前期比120.3%増の727億円、税引前利益は同43.6%増の90億円となりました。好調な相場環境の中で業績が伸び悩んだ

のは、当期に上場を果たした投資先のバイオベンチャー銘柄の株価が急落したことによるものです。

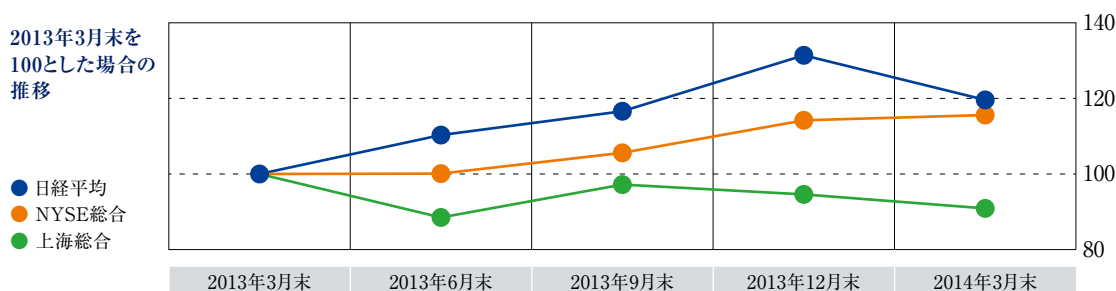
当事業の業績に非常に大きな影響を与えるのは公正価値評価の変動による損益です。国際会計基準(IFRS)の適用に伴い、保有する営業投資有価証券は上場、非上場にかかわらず四半期ごとに公正価値で評価し直され、実際の資産売却がなくてもその評価額の増減が営業収益に計上され、同額が営業損益、税引前損益として認識されます。このため、各四半期末時点の株式市況により当事業の業績は大きく変動します。

なお、投資育成等のために取得した企業等のうち、支配していると認められるために連結子会社となっている企業や、SBI貯蓄銀行をはじめとする海外金融サービス事業のグループ企業も当セグメントに含まれています。

## 主要株式市場の平均株価推移

|        | 2013年    |          |          |          | 2014年    | 騰落率(%)<br>2013年3月末～2014年3月末 |
|--------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------------------------|
|        | 3月末      | 6月末      | 9月末      | 12月末     | 3月末      |                             |
| 日経平均   | 12,397.9 | 13,677.3 | 14,455.8 | 16,291.3 | 14,827.8 | +19.6                       |
| NYSE総合 | 9,107.0  | 9,112.7  | 9,621.2  | 10,400.3 | 10,527.7 | +15.6                       |
| 上海総合   | 2,236.6  | 1,979.2  | 2,174.6  | 2,115.9  | 2,033.3  | △9.1                        |

2013年3月末を  
100とした場合の  
推移



## 第4四半期に上場バイオベンチャー銘柄の株価が急落

2014年3月期の上半期において国内IPO(新規株式公開)市場は盛り上がりを見せ、新規上場銘柄の初値倍率(初値/公募価格倍率)は高水準で推移しました。とりわけバイオベンチャー銘柄は初値が高騰し、SBIグループ投資先のリプロセルが2013年6月に上場した際の初値倍率は5.6倍となりました。

しかしながら、米国のバイオテクノロジー銘柄と同様に、国内のバ

イオベンチャー銘柄の株価も第4四半期に急落し、2014年3月期にIPOを果たしたSBIグループが保有しているバイオ関連銘柄の株価も大幅に下落しました。

具体的には、先述のリプロセルに加え、2014年2月に上場したAcucelaの株価が大幅に下落し、この2銘柄で第4四半期に54億円の評価損を計上しました。このように第4四半期に公正価値評価の変動損益が大幅にマイナスとなったことが、当事業の利益が伸び悩んだ要因となりました。

## 2014年3月期業績の主な変動要因

(IFRSベース、単位:億円)

|                         | 第3四半期累計<br>(2013年4月～12月) | 第4四半期<br>(2014年1月～3月) | 通期<br>(2013年4月～2014年3月) |
|-------------------------|--------------------------|-----------------------|-------------------------|
| 税引前利益                   | 129                      | △40                   | 90                      |
| うち、公正価値評価の変動による損益及び売却損益 | 126                      | △32                   | 94                      |

2014年3月期 第4四半期(2014年1月～3月)のバイオ関連の主な上場銘柄の損益

| 銘柄      | 株価の推移                         | 評価損益及び売却損益 |
|---------|-------------------------------|------------|
| リプロセル   | 第3四半期末: 1,725円 ⇒ 第4四半期末: 909円 | △39億円      |
| Acucela | 上場初値: 2,300円 ⇒ 第4四半期末: 1,581円 | △15億円      |

## セグメント別概況

### Asset Management Business

## 12社がIPO・M&Aを実現

2014年3月期には、SBIグループの投資先企業から12社がIPO・M&Aを実現しました。その内訳は国内IPOが3社、海外IPOが5社、M&Aが4社となっています。SBIグループは国内投資先のIPOに際して海外の株式市場も積極的に活用していく方針であり、当期においては投資先のオートサーバーが台湾のグレイ証券市場（GTSM）に日本企業として初めてプライマリー上場を果たしました。

当期の投資実行額は241億円となり、依然、ベンチャーキャピタルとして日本で最も活発な投資実行を継続しています。

2014年3月末におけるプライベート・エクイティ等のグループ運用資産（現預金及び未払込額を除く）は2,012億円となり、その地域別内訳は日本国内が1,014億円、海外が998億円と、ほぼ半々となっています。

## グループ運用資産の状況

### ● プライベート・エクイティ等

3,080億円

（現預金及び未払込額1,068億円を含む※3）

（億円）

| 業種別        |       | 地域別   |       |
|------------|-------|-------|-------|
| IT・インターネット | 260   | 日本    | 1,014 |
| バイオ・ヘルス・医療 | 484   | 中国    | 347   |
| サービス       | 218   | 韓国    | 185   |
| 素材・化学関連    | 23    | 台湾    | 15    |
| 環境・エネルギー関連 | 155   | 東南アジア | 98    |
| 小売・外食      | 131   | 米国    | 300   |
| 建設・不動産     | 9     | 欧州    | 15    |
| 機械・自動車     | 90    | その他   | 38    |
| 金融         | 383   |       |       |
| その他        | 258   |       |       |
| 合計         | 2,012 | 合計    | 2,012 |

### ● 投資信託等

1,836億円

（億円）

|      |       |
|------|-------|
| 投資信託 | 1,035 |
| 投資顧問 | 767   |
| 投資法人 | 33    |

※1 2014年3月末日における為替レートを適用

※2 億円未満は四捨五入

※3 運用ファンドで保有する現預金のほか、出資約束金のうち今後のキャピタルコールにより出資者から払込を受けることが可能な金額（出資約束未払込額）を含む。

## 2014年3月期：投資先企業のIPO・M&A実績

| 社数             | 年月        | 投資先企業名                                           | IPO/M&A      | 事業内容                                                                              | 本社所在地 |
|----------------|-----------|--------------------------------------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 国内：7社<br>海外：5社 | 2013年 6月  | (株)リプロセル                                         | IPO (JASDAQ) | ヒトiPS細胞及びヒトES細胞の技術を基盤としたiPS細胞事業と臓器移植等に係わる臨床検査事業                                   | 日本    |
|                | 2013年 7月  | TERATECH CO., LTD.                               | IPO (KONEX)  | 半導体の開発・製造                                                                         | 韓国    |
|                | 2013年 7月  | Fuelcellpower Co., Ltd.                          | IPO (KONEX)  | 燃料電池の研究開発                                                                         | 韓国    |
|                | 2013年 9月  | SGS (株)                                          | M&A          | 飲食店向け広告及び通信ソリューションの提供                                                             | 日本    |
|                | 2013年 11月 | Midong Electronics & Telecommunication Co., Ltd. | IPO (KOSDAQ) | 自動車用運転支援システム及びドライブレコーダーの製造販売                                                      | 韓国    |
|                | 2013年 12月 | Solueta Co., Ltd.                                | IPO (KOSDAQ) | 電子波遮蔽素材の生産及び販売                                                                    | 韓国    |
|                | 2014年 1月  | (株)エムシープラス                                       | M&A          | ファッションに特化したコンテンツやメディアの企画及び運営                                                      | 日本    |
|                | 2014年 1月  | (株)スフィード                                         | M&A          | 医療情報サイトの運営、医療機関向けWebソリューション、情報端末の販売                                               | 日本    |
|                | 2014年 1月  | ディナベック (株)                                       | M&A          | 遺伝子創薬事業、細胞工学に基づく細胞治療・再生医療事業、バイオ事業                                                 | 日本    |
|                | 2014年 1月  | (株)オートサーバー                                       | IPO (GTSM)   | 情報ネットワークにおけるコンピューター通信システムを利用した自動車販売に関する情報処理ならびに情報提供、及びコンピューターシステムの企画開発、販売ならびに保守管理 | 日本    |
|                | 2014年 2月  | Acucela Inc.                                     | IPO (東証マザーズ) | 眼疾患の治療及び進行を遅らせるための新治療薬の研究開発を専門としたバイオテクノロジー事業                                      | 米国    |
|                | 2014年 3月  | CYBERDYNE (株)                                    | IPO (東証マザーズ) | 医療・介護福祉・生活支援分野等で活用されるロボットスーツの研究開発・製造・販売及び製品を利用したサービスの提供                           | 日本    |

## 改善を続けるSBI貯蓄銀行

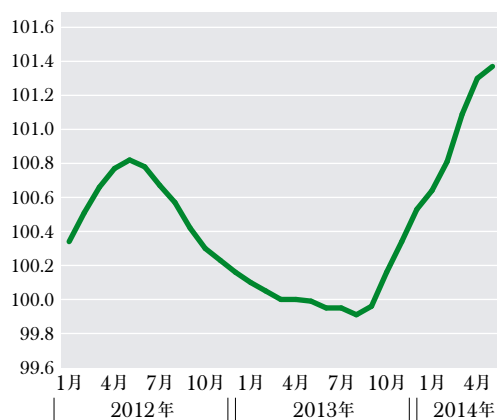
2013年3月に連結子会社化したSBI貯蓄銀行は、韓国において個人・自営業者・中小企業などを主な顧客とする地域密着型の貯蓄銀行事業を行っています。

足元の韓国経済は緩やかな改善を続けており、2014年1～3月の実質GDP成長率は前年同期比3.9%増と、3年ぶりの高水準となりました。また、不動産取得税率の引き下げをはじめとする韓国政府の不動産取引活性化策が奏功し、住宅価格は急速に回復しており、住宅売買取引量も前期と比べて堅調に推移しています。

SBI貯蓄銀行では、これら不動産市況の改善を背景に、プロジェクト・ファイナンスや消費者ローンの不良債権の売却などによる債権回収を着実に進めました。また、SBIグループからの資本注入を受けたことで営業強化が可能となり、個人向けローンではキャンペーンやテレビCMなどの積極的なプロモーションを実施しています。また、法人向けローンでは融資体制を強化したことで、新規融資実行額が増加しています。

これらの結果、2014年3月期においてSBI貯蓄銀行は40億円の税引前利益(IFRS)を計上しました。引き続き正常資産増加と不良資産削減に注力することで、将来のIPOに向けて収益力の一層の強化を図っていきます。

### 韓国 住宅価格指数(2013年3月=100)



出所:韓国銀行



中川 隆

SBIインベストメント(株)  
代表取締役社長

## 「新産業クリエイター」として社会に貢献

SBIインベストメントは、SBIグループのアセットマネジメント事業における中核的企業であり、「新産業クリエイター」として21世紀の中核的産業の創造及び育成を担うリーディング・カンパニーになるという経営理念のもと、ベンチャーキャピタルファンドの運用・管理を行っています。

2014年3月末時点での累計投資社数は国内外合わせて626社に上り、そのうち130社をIPOやM&Aにより世の中に輩出してまいりました。

SBIインベストメントの特徴は、SBIグループの経営資源を有効活用して、積極的に経営に参加するフルハンズオン型投資を行っている点にあります。投資先企業の経営資源不足の解消を図るべく、IPOまでの一貫した業務支援体制を構築し、提供することで、投資先企業の成長スピードを一気に加速することを可能にしています。今後も、SBIグループの経営理念のもと、高い志を持ったベンチャー企業を支援することで、投資先とともに成長し、社会に貢献できるよう努めてまいります。